

★GAKUSHO – INFORMATION★

このメールでは、アドレスをご登録いただきました先生方、  
弊社社員と名刺交換させていただいたお客様に、  
新商品や展示会、教育業界の情報などについて、随時お知らせしていきます。

今回は、

- ★おすすめ！夏から取り組むまとめ教材
- ★今年もやります！夏季デジタル特別セット 2022
- ★ローマ字テストとタイピングとこどもの視力を守る動きについて

2022年 7月号 担当 東日本販売推進部 平川 琢磨

\*\*\*\*\*

- ★おすすめ！夏から取り組むまとめ教材

そろそろ6月に受験した模擬試験の結果が届いている頃ではないでしょうか。  
これまでの成果を先生に報告する生徒や、どこまでも青い空に遠いまなざしを向けている  
生徒さまさまざまな生徒が先生たちの近くにいらっしゃるかと思えます。  
さて、その帳票、一喜一憂しているのはもったいない貴重なツールです。  
苦手な単元を可視化してくれた帳票をもとに長い夏休みを利用した弱点対策を行える  
チャンスではないでしょうか。  
ということで、今回は「単元別」に攻略できる教材を紹介します。

- ・『BUILDER 受験版』と『単元チェックテスト』

中学3年間の「単元別」攻略教材です。  
単元別にまとめられていますので、苦手な単元を集中的に取り組めます。  
各単元は「要点整理」→「確認問題」→「基本問題」→「発展問題」という展開のため  
苦手な度合いによってどこまで学習すべきか分かりやすくなっています。  
また、1人で学習を進めやすいように難しい問題には解説動画を英語では巻末のリスニング  
問題でも音声を利用できるようにしています。  
(どちらもQRで無料)

さらに姉妹商品である『単元チェックテスト』(別売)は『BUILDER 受験版』と  
全く同じ単元配列になっていますので、『BUILDER 受験版』と一緒に取り組むことで  
各単元のさらなる定着を図ることができます。

BUILDER 受験版

[https://www.gakusho.com/kyouzai\\_detail/builder\\_jhs.php](https://www.gakusho.com/kyouzai_detail/builder_jhs.php)

BUILDER 単元チェックテスト

[https://www.gakusho.com/kyouzai\\_detail/builder\\_checktest.php](https://www.gakusho.com/kyouzai_detail/builder_checktest.php)

\*\*\*\*\*

★今年もやります！夏季デジタル特別セット 2022

昨年に引き続き、今年も夏季デジタル特別セット 2022 のキャンペーンがはじまりました。  
対象は、「基本のキ」、「基本のキ 思考力編」、「デジタルドリル中学」の3種類です。

「基本のキ」では中1から中3の5教科、名前の通り基本中の基本から丁寧な説明が特徴です。

「基本のキ 思考力編」では典型的な思考力問題を「基本のキ」のように考え方から解説してくれます。

指導に時間と手間が大きくかかる思考力問題への取り組みにご利用ください。

「デジタルドリル」は単元別に基本から発展問題まで網羅したデジタル問題サービスです。

キャンペーン期間は、7月31日までの申し込みで、申し込みから1か月間です。

1教室50名までご利用いただけます。

先着100教室での締め切りとなりますのでお急ぎください！

↓『夏季デジタル特別セット』の詳しいご案内はこちら↓

[https://gakusho.com/pdf/2022.06.13\\_digital\\_summer\\_trial.pdf](https://gakusho.com/pdf/2022.06.13_digital_summer_trial.pdf)

↓お申込用紙のダウンロードはこちらから↓

お申し込み PDF

[https://gakusho.com/pdf/2022.06.13\\_digital\\_summer\\_cnp.pdf](https://gakusho.com/pdf/2022.06.13_digital_summer_cnp.pdf)

お申し込み Excel

[https://gakusho.com/pdf/2022.06.13\\_digital\\_summer\\_cnp.xlsx](https://gakusho.com/pdf/2022.06.13_digital_summer_cnp.xlsx)

\*\*\*\*\*

★ローマ字テストとタイピングとこどもの視力を守る動きについて

GIGA スクールの進展により、早期からローマ字とそのタイピングへの慣れを促す動きがあります。概ねいまの小3からの指導で問題ないという意見が多いようですが学校で指導する「訓令式」と一般的に使用されている「へボン式」とで混乱が見られるようです。

「シ」という音を「s i」（訓令）とするか「s h i」（へボン）とするかの違いで学校での指導も区別することなく行われている可能性があるようです。

現状、人名や地名の表記で混乱が生じているという指摘があり6月中旬に行われた文化庁の文化審議会国語分科会国語課題小委員会でもこのような混乱を早急に検討すべき課題だと認定し、来年度までに方針を出すことに決まりました。

日常生活ではどちらでも大きな問題はないようにも思えますが、社会全体のデジタル化をすすめるにあたって表記の統一は最重要な課題ともいえそうです。いまの小学生に、ローマ字と英語の違いを説明するのも一苦勞でしたが訓令式とへボン式の違いも説明するのは骨が折れそうです。

さて、さまざまな問題を抱えて進んでいる GIGA 構想ですが小さなころからデジタル機器が身の回りにある子供の目にはこれまで以上に負荷がかかっているようです。

画面から目までの距離は30cm以上離す、長時間の視聴を避けるなどの目を守る取り組みもこれからの学習指導に必要になってくると思われます。

【ローマ字テストとタイピング】

<https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/5.html>

【中3の視力0.3未満が3割…文科省「小中学生の近視深刻」報告に、  
ネットで「スマホの弊害」論争】

<https://news.yahoo.co.jp/articles/baf25718849c2636d56daa2392229ef6f2f4b068>

\*\*\*\*\*